

令和3年度事業報告

愛の浜園

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) グループホームフレンド3の再建

ア. 外部環境

昨年1月に発生したグループホームフレンド3の火災のために、利用者6名は障害者支援施設愛の浜園（以下：施設）にて生活を送っています。しかしながら、施設側の定員オーバー等により、利用者6名及び施設利用者がふだん2名で利用している居住棟に3名が生活することとなり、双方に窮屈な生活となるため、精神的にも負担となっています。

イ. 重点課題に対する取り組み

当初、施設内への仮設のグループホームを計画し、この再建に向けて設計事務所等との協議を重ねてまいりましたが、材料費（とくに木材）の高騰など想定外の要因により建設費が嵩むことが判明したことなどにより、計画を見直し別の場所に建設できないか検討しました。その結果、防災上のリスクもない候補地として奄美病院横の財団所有地を選定、財団側の協力を依頼しました。

そして、この場所に鉄筋4階建てを新築、その1階部分に本園のグループホームが入れることとなり、詳細について今後は財団（奄美病院）側と協議を行います。

(2) 行政や医療機関との連携強化

ア. 外部環境

愛の浜園においても、全国の障害者施設と同様、利用者の滞留化が起き、高齢化・重度化が進んでいます。障害福祉サービスだけでなく、介護や医療の分野など関係機関との連携がさらに必要です。

高齢化などにより、利用者の障害特性に応じたサービスの提供が困難になることや、施設入所を希望している障害者の要望に対応できないなどの問題が発生しています。

イ. 重点施策に対する取り組み

本園では、行政、包括支援センターおよび医療機関等と連携して、利用者の特性を把握したうえでどのような福祉サービスが最も相応しいか、複数回の協議を行い対応しています。

本園の90歳の利用者は、食欲不振となり、食事介助だけでは対応できなくなったため入院することとなりましたが、今後の福祉サービスについて関係機関と協議した結果、医療及び介護のサービスが主となるため、本園を退所し、介護サービスへ移行することとなりました。

また、末期がんを患っていた本園利用者も、体調を崩し入退院を繰り返していましたが、最後まで本園利用を希望されていました。入院後に、障害者支援での限界であるとして退所となりましたが、数日後に死去いたしました。ご利用者の希望に沿いながらも、できるかぎりの支援と、病院や行政などとの協力のもと、最後までご家族にも納得いただく支援をすることができました。

2. 各事業所の取り組み

(1) ＜施設入所支援＞ 定員：40名

職員や園外利用者の周辺で、新型コロナウイルスの陽性者や濃厚接触者が散見されましたが、ゾーニング、使い捨て食器による居室での食事提供、手指消毒など様々な感染症対策を行いながら、余暇活動（ドライブ、ビデオ鑑賞、カラオケ等）を実施しました。地域行事は、多くのが中止となり、地

域の皆様との交流などができませんでした。外出や外食などは、感染状況（警戒レベル等）を参考にしながら、感染対策を工夫して実施しました。

施設入所事業（前年比収入：+690,062円）

計 画	実施内容	反 省	課 題
利用者本人、ご家族のニーズや目標が達成できるよう、個別支援計画書を作成し、日中、利用する各事業所と連携を図りながら取り組みます。 高齢利用者、車いす利用者、重度の利用者を対応する為、施設内の環境整備や、職員のスキルアップ、必要に応じて研修や、外部講師を依頼し、利用者の方々のが、快適な環境で生活できるようにサービスを提供します。	定員 男性：20名 女性：20名 計40名 3/31時点入所 計39名 食事、排泄、歯磨き、入浴、移動の介助、洗濯支援、余暇支援を行いました。 生活に関する相談や助言を行いました。 余暇時間に外出、外食、ドライブ、ビデオ観賞、園内でのカラオケ等を実施しています。 個別支援目標達成の為のスキルアップ支援に取り組みました。 利用者の高齢化、重度化に伴う介護用品を購入しました。 毎朝の検温や必要な方へのバイタルチェックをしました。 入浴後の身体チェック、軟膏塗布などを実施しています。 選択支援及び買い物支援を行いました。	利用者個々のニーズに合わせ、個別計画を作成しながら、地域資源（和月、奄美病院デイサービス、有料ヘルパーの利用など）を活用した取り組みも行いました。 余暇活動の充実として、（ドライブ、ビデオ鑑賞、カラオケ等、）または、外出（買い物、食事）を充実させ、利用者が楽しく余暇時間を過ごせるように工夫して支援を行いました。 新型コロナウイルスの関係で地域行事や地域との交流はできませんでした。	高齢や重い病気、介護や医療の支援度が大きくなった方の為に施設の整備が整わない状況はどうするのか。 高齢や重い病気を持った方の為に、介護保険へのスムーズな移行をしたい。 家族が高齢になった方の後見人を早急に対応する必要がある方の対応をどうするか。 職員スキルアップの研修、装着が容易で実用的な介護用ロボット導入を検討できないか。

（2）＜生活介護事業＞ 定員：52名

班別活動（ミラクル班・サポート班・スマイル班・チャレンジB班）、生産活動（陶芸）、クラブ活動、レクリエーションおよびヘルスタイムを実施しています。外出支援は、新型コロナウイルス感染症対策のため、感染状況を考慮しながら実施しました。不特定多数の人が集まる場所への外出は控え、時期によっては外食も控えました。

園全体で軽い運動に取り組むため、10時半、15時半にラジオ体操を行いました。ボランティア活動では知名瀬海岸のゴミ拾いを行うとともに、外部講師によるジャンベ演奏活動や音楽療法など、利

用者のニーズや希望に応じた支援を行いました。

生活介護事業（前年比収入：△4,163,576円）

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
班別活動を中心に、クラブ活動、レクリエーション、外出支援および年間行事等を計画します。 班別活動においては、運動、リハビリ、創作、農芸、洗濯および掃除など、利用者が楽しく、利用者の希望や能力が発揮できるように意欲的に過ごせるように支援します。 高齢および重度利用者の支援では、個々の体調に合わせ、施設入所事業所と連携を図りながら、外部資源も活用し、地域の行事に参加するなど、利用者の希望やニーズに応えられるよう計画します。	生活介護利用者 定員 52 名 生産活動、班別活動、全体活動、クラブ活動、ヘルスタイム、レクリエーション、美化活動、外出支援、ボランティア活動等を行いました。 生産活動班では、手工芸、農芸、陶芸等を実施しました。 陶芸班では、利用者一人一人が作品を作る過程に携わり、利用者が出来る作業を見つけ、技術が身につくように傍で見守りや声掛けを行いました。 ミラクル班では、園内の整備や美化活動。グラウンドや中庭の草抜き、雨天時は寮内清掃を行うとともに、花苗を購入し、プランターや花壇に苗を植え、園内の美化活動に取り組みました。町内、地域貢献として、みなと公園のゴミ拾いをしました。 サポート班では屋内ウォーキングや園内ウォーキングおよび園外（港公園）ウォーキングおよびドライブ支援を実施しました。 ヘルスタイムでは、外部講師を招き健康体操を行うとともに、高齢利用者へのリハビリを、音楽の日では外部講師による音楽活動を、レクリエーションでは、運動、歌や踊りをしました。 外出支援では、感染予防を徹底しながら、カット、外食、買物、カラオケ等利用者のニーズに応じた外出を行いました。 ボランティアでは、知名瀬海岸の清掃、町内および県道のごみ拾い等を実施しました。	陶芸班では、利用者一人一人が作品を作る過程に携わり作品を制作することが出来ました。また、陶芸をする職員がそれぞれの発想で新しい作品を生み出せていました。 ミラクル班の除草作業や寮内清掃では、一人一人に声掛けを行い、見守る事により、それぞれ集中して取り組む事ができ、利用者の得意な作業を見つけることができました。計画していた就労体験は、数回程度の実施となりました。 サポート班ではウォーキングを行いましたが、園内活動が多く、園外での活動に取り組む機会が減りました。ウォーキング以外の活動も少なくなりました。 健康維持のために、朝礼以外にもラジオ体操を取り入れ実施しました。	陶芸班では利用者が関われる作品作りを職員それぞれが考えているので、今後も引き続き継続していく。 ミラクル班では利用者の高齢化に伴い、適度な休息を取り入れながら、活動を行う必要がある。 利用者が楽しく積極的に活動出来るように、活動内容の検討や支援方法を工夫していく必要があります。 音楽、レクリエーションの種類を増やし、園外活動を取り入れ楽しむ活動に取り組めます。

①施設利用状況					
[単位：人，日（）書きは前年度実績]					
	定員	在 籍	欠員年間延日数	外泊者 年間延日数	13人 (12)
男	20	20 (20)	108		105日 (95)
女	20	19 (19)	221	入院者 年間延日数	4人 (6)
計	40	39 (39)	329		224日 (97)

②年齢構成									
[単位：人，歳（）書きは前年度実績]									
	18歳以上 20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 60歳未満	60歳以上 65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳 以上	計	平均年齢
男	0 (0)	6 (8)	9 (8)	2 (3)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	49.4歳 (48.4歳)
女	0 (0)	5 (5)	6 (5)	3 (4)	2 (1)	3 (3)	0 (1)	19 (19)	53.3歳 (55.9歳)
計	0 (0)	11 (13)	15 (13)	5 (7)	5 (2)	3 (3)	0 (1)	39 (39)	51.35歳 (52.15歳)

③障害区分・施設入所							
[単位：人（）書きは前年度実績]							
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男	0 (0)	0 (0)	0 (1)	4 (4)	5 (6)	11 (9)	20 (20)
女	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (5)	3 (5)	10 (9)	19 (19)
計	0 (0)	0 (0)	0 (1)	10 (9)	8 (11)	21 (18)	39 (39)

④障害区分・生活介護							
[単位：人（）書きは前年度実績]							
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男	0 (0)	0 (0)	0 (4)	10 (8)	10 (13)	11 (12)	31 (37)
女	0 (0)	0 (0)	2 (2)	5 (5)	6 (9)	10 (11)	23 (27)
計	0 (0)	0 (0)	2 (6)	15 (13)	16 (22)	21 (23)	54 (64)

(3) <就労継続支援B型事業> 定員：18名

就労継続支援B型事業（前年比収入：+1,160,840円）

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
障害者総合支援法に基づき、通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に生産活動の機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識及び能力の向上に必要な訓練等の福祉サービスを提供することを目的とします。 〔作業種目〕 委託事業（ストックヤード）、農業、大島紬織り、手芸など （相談支援） 基本6か月毎であるが必要に応じてモニタリングを実施し、個別支援計画をニーズに沿って作成します。また、日常生活、対人関係、健康面の相談支援を行います。また毎月5日に工賃を支給している工賃額について、6か月に1回工賃評価を行います。 （余暇活動・レクリエーション） 感染症に留意しながら、桜の花見や、旧桃の節句など利用者が楽しめる季節に応じた行事を企画し、実施します。	コロナ渦の中で、毎日の検温や手洗い、うがい等の感染症対策を行い、委託事業や園内作業を取り組みました。 園内でコロナウイルス陽性者が発生した時には、主に同事業所の施設、グループホームの利用者に対し、在宅サービスを行いました。 知名瀬港環境施設整備は、週3回のトイレの内外の清掃及び、約2か月に1回の草刈を行いました。 手芸作業は七夕飾り作りや紬織、陶芸品の販売などを取り組み、今年度は新たに紬のアクセサリーの作成、販売も行いました。 地域などから委託作業で、時計草磨きを行いました。 コロナ禍で、地域との交流のレクリエーションは全て中止となりました。 浜下れなどのレクリエーションを感染症防止対策のもと取り組みました。 令和3年度就労B総収入 分別作業：5,144,120円 農業：321,050円 公園清掃：240,000円 手芸・陶芸・紬：1,181,640円 委託作業：266,800円 計：6,913,610円 （前年度比△17,431円）	令和3年度定員18名に対し、現員（令和4年3月時点）13名であり、今後も利用者の増員を目指していく必要があります。 農業の売り上げが減っているため、栽培方法や土壌改良などを行い、収益改善を目指す必要があります。	コロナ渦で施設見学や作業体験が出来ない事が多く、新しい利用者を受け入れる事が難しくなっています。 今後も相談支援専門員と連携を図り、利用者の受け入れを積極的に行います。 コロナ禍における在宅サービスの作業内容を考察し充実させていく必要があります。 感染症予防で利用者の健康状態を把握できるよう、家族と密に連絡を図ります。 利用者の高齢化が進み、ニーズを合わせた支援や作業の提供がより必要になっています。

(4) ＜短期入所・日中一時支援＞

在宅で生活している利用者、ご家族の負担軽減や、緊急時等に安心して利用いただけるように体制を整えながら、日中、夜間における一時的な見守りや日常的に支援が必要とされる利用者のご家族の負担軽減、また本人の社会との繋がりや居場所がない場合の支援の受入を行います。

短期入所(前年比収入:△2,181,320 円) 日中一時(前年比収入:△166,389 円)

計 画	実施内容	反 省	課 題
在宅で生活している利用者、ご家族の負担軽減や緊急時等、安心して利用して頂けるように体制を整え提供します。 障害（児）者の日中における一時的な見守りや日常的に支援が必要とされる利用者のご家族の負担軽減、また、本人の社会との繋がりや居場所がない場合の支援を受け入れます。 利用者のニーズあった日課や余暇活動を提供します。 短期入所は個別支援計画に基づき、支援に取り組みます。 家族と必要に応じて連絡を取り合い、ニーズに応じた取り組みを行います。 毎日体調確認を行い、体調不良時はその都度家族と連絡を図り対応します。 施設見学等の希望があれば調整を行い実施します。 健康面、安全面に留意します。 余暇の希望など聞いて充実した余暇を提供します。 カメラなどで預かり品のチェックを行い、利用者の私物の保管、管理を確実にを行います。 本人の体調不良時や施設での感染症発生時に家族との連携を密に図り対応を検討します。	短期利用 延日数： 1,403 日 男性 8 名、 女性 3 名 日中一時利用 延日数： 332 日 男性 3 名 女性 2 名	火災にあったグループホームの利用者が利用しているため、短期の長期利用がいる事で、他の利用者の利用をお断りする事もありました。 新型コロナ感染の影響で利用のお断りを余儀無くされた方もいました。 新型コロナ感染の影響で施設見学等が出来ませんでした。	短期を兄弟で利用したいが、定員枠がなく、利用できませんでした。 職員配置が不足したことにより、短期が利用出来ないケースがありました。

短期入所、日中一時支援の利用状況			
[単位：人,日 () 書きは前年度実績]			
	契約人数	利用延日数	理 由
短期入所	13	1,551	在宅での生活が難しい方の利用（安全面の確保など）
	(12)	(1,340)	家族の虐待対応ケース
日中一時支援	6	360	ご家族の介護の軽減
	(5)	(357)	本人の希望

(5) <フレンド> 定員 22 名

昨年同様、町内会行事、地域の行事は新型コロナウイルス感染防止対策のため、中止となり参加は見送られました。

毎月、世話人および支援員の会議、利用者の自治会を開いて、利用者の支援、グループホーム全体での問題点などを話し合い、改善点および支援方法を共有しました。利用者からの食事メニューの要望などを献立にできるだけ取り入れ、改善を図りました。施設にいる利用者についても体調管理等を含め、支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、行事などが中止となるなか、余暇支援（外食、買物）を実施して、余暇時間を楽しめるようにしました。

（前年比収入：＋265,920 円）

計 画	実施内容	反 省	課 題
日常生活の支援については、世話人、支援員、各事業所の職員との連携を図りながら、支援します。 余暇支援、外出支援、地域の行事などへ積極的に参加し、地域の一員としての自覚を持って生活できるように支援します。 利用者の社会参加、自立した生活を目指し、個々に応じた支援計画に沿って生活力を向上させる事ができるように支援します。	地域行事、海岸清掃、イベントなどは今年も新型コロナウイルス感染対策の為、中止になり参加できませんでした。 毎月、世話人、支援員との全体会議を実施し、利用者支援、ホーム全体での問題点、ヒヤリハットの話し合い、改善点など共有し、支援に取り組みました。 全体会議の後に利用者全員（自治会）を実施し、食事メニューの希望、ホーム内でのルールの確認、利用者から園への要望、ホームへの要望などの意見を聞いた。食事メニューは出来るだけ要望を取り入れました。予算を伴う要望については、園長への報告を行い、検討事項と	大島支庁へ事故報告書 4 件（うち 2 件は日中活動での事故）、事故につながりかねないヒヤリハット 24 件が報告されています。 利用者が高齢化したことから、転倒、ケガが多くありました。また、薬のセット間違い、事業所へ持たせ忘れ、飲み込むまでの確認不足で床に落ちていた等服薬関係の事案が減りません。 薬袋の名前、日付を声に出して確認	体調不良時の夜間帯の健康観察、見守りが課題です。 薬のセット確認、与薬時の確認の徹底し、ヒヤリハット、事故を防ぎます。 余暇支援、外出、外泊支援が制限されています。 一部の利用者間の良好な人間関係構築が課題です。 利用者の高齢化への対応が必要です。 フレンド 3 の再建が急がれます。 夜間帯の支援等を行うための職員の勤

	しました。 利用者の健康管理、安全確保として、定期受診、健康診断、奄美市ガン検診、インフルエンザ予防接種、コロナワクチン、結核健診、胃カメラ、大腸ファイバー等による検査を実施して早期発見に対応します。 個別支援計画書に沿った支援として、健康管理、余暇支援、身嗜み、情緒の安定、家族との関わりなどを支援します。	し、落とさないようにコップに入れるなど飲み込むまでの確認をするよう対応しました。 利用者間の人間関係の問題がありホーム替えを検討しました。 昨年のフレンド 3 火災後に施設での生活をしているため、自室がなく狭い中での窮屈な生活が続いています。 コロナ感染症の為、外出、外泊が思うように計画出来ませんでした。 職員等の感染により、帰園できないケースがありました。	務体制が課題です。
--	---	---	------------------

(6) <指定特定相談支援事業「ていだ」>

(前年比収入：+1,764,870 円)

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
現在の契約者へ誠意をもって対応します。 各関係者との連携（事業所、病院、市町村、ぴあリンク奄美（基幹センター）等々）を強化します。 地域貢献（契約者以外での対応（困っている人	＊令和3年度の業務内容 ・新規利用者アセスメント、担当者会議 ・モニタリング会議 ・病院受診同行 ・退院カンファレンス ・事業所見学 ・事業所調整 ・相談、面談、訪問 ＊令和3年度の実績 ・新規利用計画 18 件 ・更新計画 120 件	今年度も「ていだ」は担当制をとらずに、チームで相談業務の仕事に従事しました。 新型コロナウイルスの関係で、思うような訪問や担当者会議はできませんでしたが、ZOOM（パソコンでのリモート）で対応する等、業務の遂行に努めました。 また、新規利用者は複数で訪問し、情報の共有や方向性の検討をする事で、その後の	・件数が増え利用者への丁寧な対応 ・事例や経験を重ね、更なるスキルアップを目指す

の相談、案内、紹介)を可能な限り実施します。	・モニタリング 339 件 令和 3 年度の請求額 (9,571,440 円) *新規利用は 18 件あったが全体的件数は 174 件であった。 今年度は、島外への転出者 1 名や死亡による利用者 3 名、サービス変更 (介護保険) 1 名等もあった。	流れをスムーズに進める事が で、情報共有やケース報告を する事で自己の振り返りや次 のサービスの展開を検討し取 り組む事ができた。 その為、相談員としてサー ビス等の判断やスキルもアッ プにも繋げる事ができた。	
------------------------	--	--	--

(7) <実習受入れ>

奄美看護福祉専門学校の実習を受入れました。

※奄美看護福祉専門学校の実習は 6 月 21 日から 3 名、7 月 12 日から 2 名を受け入れました。途中で体調不良の実習生もいましたが、日程を調整することにより全員修了することができました。

※大島養護学校の実習は、今年度は学校側からの要請がありませんでした。

実習生所属先	実 習 期 間	人 数	計 (延人数)
奄美看護福祉専門学校	6 月 21 日～7 月 1 日 (10 日間)	男性 2 名、女性 1 名	30 名
	7 月 12 日～7 月 22 日 (10 日間)	男性 1 名、女性 1 名	20 名
大島養護学校			0 名
計		5 名	50 名

(8) <保健衛生>

職員に向けての口腔ケアの取組みや知識を得るための研修が実施できました。コロナ禍のため、歯科の訪問日数は減少したものの、治療を含め定期的な口腔ケアを実施できました。

職員に新型コロナウイルス陽性者が出たものの、普段から感染防止対策の徹底により利用者への感染を防ぐことができました。また、早期に感染症対策会議を開催し、職員間の情報共有、ご家族や医療機関への報告、感染区域のゾーニング、面会制限を実施して感染拡大防止に努めました。

高齢により介護度、医療介入が必要になり、より安全に生活できるように介護保険申請に向けて検討会を行うことができました。個々の病状に合わせた緩和ケアに向けて受診等を行っています。

令和3年度通院および入院治療の状況													
(数値は年間延べ人数)													
診療科		内科	精神科	整形外科	脳外科	外科	耳鼻科	皮膚科	眼科	歯科	婦人科	泌尿器科	合計
通院治療	令和3年度	145	507	22	0	23	13	95	51	223	7	6	1,092
	令和2年度	149	518	4	1	12	13	84	70	331	6	7	1,195
	増 減	△ 4	△ 11	18	△ 1	11	0	11	△ 19	△ 108	1	△ 1	△ 103
入院治療	令和3年度	15	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	18
	令和2年度	11	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1	16
	増 減	4	△ 2	2	0	1	0	△ 1	△ 1	0	0	△ 1	2

3. 相談・苦情解決

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
利用者のサービスに関する相談や要望を真摯に受け止め、誠意をもって迅速に対応します。 施設入所、グループホームの自治会や日常生活の中で、利用者と会話をする機会を設け、困りごとや相談事が解決できるよう努力します。	令和3年度件数：8件 苦情内容 入浴時に顔にお湯がかかり嫌だった（身体障害：車椅子） グループホームで隣の部屋の利用者が夜中にうるさくて眠れない。 たこ焼きが食べたい フレンド専用の公用車がほしい。 フレンドの畑で野菜を作りお金を設けて買いたい。 ジュースの自販機をフレンドにも設置してほしい。 サンドイッチが食べたい みんなで食事に出かけたい お好み焼きが食べたい チキンが食べたい ラーメンが食べたい。	利用者のニーズと相談の判断が困難です。 相談の報告があった時には、改めて本人や関係者から聞き取りを行って対応しました。 もっと利用者からの相談を聞くことが出来る時間を設けた方がよいのではないかと感じました。	相談・苦情を収集する手法を考えする必要があります。そのために、各部署に聞き取りを行い対応します。

4. 防災

計 画	実施内容	反 省	課 題
毎月様々な災害や時間帯を想定した訓練を行います。 年2回総合防災訓練を行います（うち1回は消防署立会）。 年2回グループホームの避難訓練を行います。 毎月施設全体を見回る安全点検を行います。 災害や事件が発生した時に、施設で対策会議など行います。 毎日各部署で火気、避難経路の点検を行います。 地域との連携を密に図り、避難時協力体制を整えます。 必要な防災用具の購入を進めます。 福祉避難所として災害時に施設を開放し、奄美市と連携して住民の受け入れを行います。 自家発電機や防犯器具を職員全員が使えるように操作の講習会を行います。 年1回救命講習を行います。 日本全国 AED マップに登録します。	各種防災訓練を実施しました。 ①火災避難訓練（早朝2回、日中1回、夜間3回） ②総合防災訓練（通報訓練1回、通報・消火訓練1回） 消防隊員は感染症予防の為不参加となりました。 ③不審者対応：1回 ④地震・津波対策：1回 ⑤風水害：1回 ⑥GH 避難訓練：2回 年に数回防災の係で会議を行い、色々な災害を想定した訓練内容を協議しました。 地元の救急救命士を招き、救命講習を行いました。 毎月安全点検を実施し、園内の補修および必要な災害費用品を購入しました。 台風などにおいて、福祉避難所として住人の受け入れはありませんでした。 トンガ沖大噴火に伴う津波時に、施設全体で避難を行いました。後日避難時の反省会を行いました。 自家発電機の説明会を実施しました。	コロナウイルスの影響で消防隊員を招いての防災訓練が行えませんでした。 自家発電機の老朽化が進み故障が多く発生しました。今後購入も含めて検討していきます。	スプリンクラーなど防災器具の設置を速やかに行っていく必要があります。 防災用品・備蓄品の購入を迅速に行います。 南海トラフ地震に伴う大津波など、巨大災害を想定した避難計画を作成します。

5. 会議及び研修

職員のスキルアップやサービスの制度についての知識を高めるために研修を行い、職員の質の向上に繋がりました。研修会等に参加できない職員への資料配布あるいは申し送り等、全員への周知徹底を図りました。

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
4 月：人権の研修 5 月：園内新任職員 研修、感染症 対策研修会 6 月：救急講習会 新任職員研修 7 月：自家発電の手 順確認 8 月：リハビリ研修 9 月：感染症対策研 修会、人権擁 護研修 10 月：おむつの研修 11 月：腰痛対策研修 会 12 月：感染症対策研 修会 1 月：介護ロボット 研修、 家族並びに施 設職員研修 2 月：大島地区合同 研修会、危機 管理講習会、 GH 事業所研 修 3 月：今年度の反 省、新年度に 向けての研修	4/27：人権の研修、 令和 3 年度事業について 5/12：園内新任職員研修 5/27：新型コロナウイルス感染拡 大防止について 仮説 GH の工事について 6/25：令和 3 年度知的障害児 （者）関係施設新任職員研 修会の出張報告、 処遇改善について 7/27：歯科、口腔ケアについて の研修 7/25～7/31：てんかん基礎講座 8/ 8～8/14：オンライン研修 8/10：救急救命講習 9/29：新型コロナウイルス感染 症対策研修会 10/4：園内新任職員研修 11/18：腰痛予防ストレッチ研 修 I 11/20：施設内研究発表会 12/27：腰痛予防ストレッチ研 修 2 1/25：コロナ対策・津波避難に ついて 2/24：中堅・人権擁護・全国大 会研修報告 3/7：園内新任研修 3/23：メンタルヘルス研修 3/24：今年度の反省、新年度に 向けての研修	新型コロナウイルス 感染拡大の影響で、外 部講師の研修が難しい 面がありました。 また、出張研修も少 なくなりました。 オンライン研修でこ れまでより多くの職員 が参加できるようにな りました。 「実践的な新型コロ ナウイルスの研修を何 度か実施していたこと で、コロナ感染者が出 たときに対応できたこ とがよかった」と、多く の感想がありました。 新型コロナウイルス の研修を複数回行うこ とで、職員の意識や知 識も高まりました。 腰痛予防ストレッチ 研修を 2 回に分けて実 施したことにより、多 くの職員が参加するこ とができました。	外部講師 の講師料の 見直しが必要 です。 コロナウ イルス感染 拡大の影響 で、外部講師 を招いての 研修会が開 催できない ことが多く ありました。 今後はオ ンライン研 修などを有 効活用しま す。 職員のス キルアップ （制度理 解、意識向 上など）に 繋がる研修 を今後も実 施していき ます。

6. 年間行事

利用者の高齢化等に伴い、行事に参加できない利用者も散見されました。

月	日	内 容	備 考
4 月	1	新年度事業開始	施設入所 40 名 生活介護 52 名 グループホームフレンド 22 名 就労 B 事業所 18 名
	14	旧暦桃の節句	知名瀬海岸等で浜下れ行事
5 月	1	創立記念日	記念日を祝う（紅白まんじゅう提供） 辞令交付式 年間努力賞
	7	家族会総会協議	家族会会長と協議、6/6(日)に家族会総会決定
6 月	2	家族会役員会	家族会総会資料、協議内容を確認
	6	家族会総会	感染防止のため奄美文化センターで総会開催
	7	理事会	オンラインで榮野理事参加
	15	総合防災訓練	新型コロナウイルス対策のため、消防職員不参加
	23	評議員会	オンラインで榮野理事参加
7 月	1	ワクチン接種	新型コロナウイルスのワクチンを、7/1、7/15(1 回目)、
	15	〃	7/21、8/5 (2 回目) 接種（副反応を考慮し、2 組に分けて実施
	21	〃	した）
8 月	13	パラリンピック聖火 ビジット	パラリンピック聖火ビジットのイベントを大島地区では本園のみで実施した。
9 月	2	夕涼み会	新型コロナウイルス対策のためイベントは中止、食事のみ提供
	16	敬老会	新型コロナウイルス対策のため写真撮影のみ 10 名参加
11 月	10	陶芸作品展示	九州労働金庫大島支店内で 11/30 まで本園陶芸作品展示
	20	施設内研究発表会	各部署から 15 分で業務内容等について発表
12 月	10	クリスマス・忘年会	新型コロナウイルス対策のため、多目的ホールにて仮装で開催
	29	仕事収め	
1 月	4	仕事始め	
2 月	22	ワクチン接種	新型コロナウイルスのワクチンを、2/22、3/2(3 回目)接種
3 月	1	年の祝い写真撮影	寅年生まれの利用者および職員について集合写真を撮影